

令和6年度岐阜県私立大学地方創生推進事業 事業計画書

○事業分野 地域人材の育成事業

○事業名

【事業名】DXで実現する地域のデジタル人材育成事業

【概要】

- 地域産業や地域社会を担う人材確保のため、デジタル・グリーン等成長分野に関するリスクリングの推進に資する「Multi Campus One Digital University」を構築し、地域人材の育成カリキュラムの開発・実践する。
- 「Multi Campus One Digital University」とは、DX（Digital Transformation）時代における“新たな学び”の創出により、デジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、リスクリング文化を革新し、時代に対応した新たなリスクリング教育システムである。
- 本システムにより、全ての授業をいつでもどこからでも受講できるようなオープンなデジタルユニバーシティの構築することにより、新たな雇用機会を創出し、地域に必要な人材確保の新たな展開を実現する。

○事業内容

- 少子高齢化社会においては、人手不足が深刻化している地方や中小企業ではデジタル化は急務であるが、それを進める人材の獲得には苦慮している。そこで採用ではなく、既存人材をデジタル人材化するための育成が各企業で進んでいる。
- 2022年秋の段階で、DXに取り組んでいる企業のうち、8割以上が従業員のリスクリングに取り組んでいる。
- 総務省も、地域の人への投資を推進しており、官民連携でリスクリングに取り組む自治体が出てきている。地域に必要な人材の確保のため、地方自治体が企業のデジタル人材育成を支援する動きは、今後も活発化ししていくと予想される。
- 企業内研修とは異なり、民間企業や個人向けに教育の機会を提供するには複雑な仕組みが必要である。誰もが学べる環境を整備する、人々が学びたいテーマの教育を準備する、誰が何を学んだか知識が身についたか進捗を確認するなど、すべてを企業内で行うことは難しい。
- それを一気通貫で実現できるのが「Multi Campus One Digital University」である。
「Multi Campus One Digital University」では、高度な指導者によるカリキュラムの開発やe-Learning配信システムを用いて学習環境を提供する。
- 「Multi Campus One Digital University」とは、DX（Digital Transformation）時代

における“新たな学び”の創出により、デジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、リスキング文化を革新し、時代に対応した新たなリスキング教育システムである。

○本システムにより、全ての授業をいつでもどこからでも受講できるようなオープンなデジタルユニバーシティの構築することにより、新たな雇用機会を創出し、地域に必要な人材確保の新たな展開を実現する。

・事業分野における地域の現状分析と課題

○本学は、建学の精神・人らしく、女らしく、あなたらしく、あなたならではの」の下、広く豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、地域社会で主体的に活動できる人材を育成している。

○また、豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、地域社会で主体的に活動できる人間力の育成を目指して、多様な授業形態を組合せた教育課程を体系的に編成し、それを実践・評価している。

○さらに、地域に貢献する大学として、地方創成イノベーションの実現と県内の地域の伝統・衣食住文化の保存並びに関連産業の振興、観光資源の発掘を目指している。

○本学は、平成 29 年本学大学院にデジタルアーカイブ専攻を設置し、デジタルリソースを有効的に活用し、新たな価値を創造する本学独自の知的創造サイクルを生かして地域課題を探求し、深化させ課題の本質を探り実践的な解決方法を導き出す人材を養成する育成カリキュラムの開発を専攻の主な研究主題としている。

○近年の、リスキリング (Reskilling) は文字通り、職業能力における再教育や再開発を意味している。なぜこの言葉が近年にわかに注目を集めるようになったのか。それは、「第 4 次産業革命」とも呼ばれる世の中の革新的な変化が背景にある。

○これまでの産業構造が根本的に変化し、かつての主力産業の衰退や業務のロボット化・デジタル化が一気に進んだ。それに伴い、企業は大量の余剰人員を抱えることになった。しかも多くの企業は、斜陽に差し掛かっているこれまでの事業の延長線上ではない、新たな事業を開拓できるイノベーション人材を求めている。

○その一方で、急速に進んだ DX (デジタルトランスフォーメーション) に対応できる IT 人材不足は深刻な状況に陥っている。

例えば、これまでテレビを主力商品として開発・製造していたメーカーが、テレビの生産をストップさせ、代わりにロボット技術の開発に事業移管する、といったイメージである。

- こういった場面で直面するのが、もう必要のなくなったスキルしか持たない従業員の処遇と、新事業で必要とされる新たなスキルを持つ人材の不足。その時、余剰となった人材を再教育（リスキリング）して再配置し、新たな雇用機会の創出につなげるというのがリスキリングの考え方である。
- リスキリングが重視されているもうひとつの理由として、DX への対応がある。DX とは単なるデジタル化・効率化ではなく、企業の製品やサービス、ビジネスモデル、そして組織そのものを変革させることである。事業構造の変化に伴い、これまでと全く違うスキルがすべてのプロセスにおいて求められることになる。
- DX は一部の IT 技術者だけが対応すれば良いというものではない。今いるすべての従業員たちが、会社の変化を理解し、新たな知識やスキルを身に付け、新しい仕組みに順応して業務を行い、利益を上げていく。
- 企業が DX に本気で取り組もうとする時、すべての従業員のリスキリングが求められる。自社の従業員が現在保有しているスキルは何か、これから必要となるスキルは何か。それを可視化させ、ギャップを埋めるリスキリングプログラムを用意する必要がある。

・大学等における課題解決に向けたこれまでの取組状況

- 地域における大学の使命は、地域における新たな価値の創造による新たな文化と雇用の創出である。そのためには、地域の大学は知の拠点としての機能を有し地域で活躍できる人材の育成が重要である。
- しかし、これまで大学の地域との連携は必ずしも十分とは言えず、地域の真のニーズに応えた教育や研究が大学でなされてきたとは言い難い。
- このために本学は、日本におけるデジタルアーカイブの拠点大学として、2013 年よりデジタルアーカイブの「知的創造サイクル」を開発し、観光、教育、企業の分野での人材育成の試行研究を行ってきた。
- その研究成果として、地域の観光の振興並びに学校教育では有意な学力の向上が認められ、デジタルアーカイブの利活用が新たな価値を創造し、地域活性化や教育の推進に有効との感触を得た。
- また、岐阜県の長期構想では、地域資源を活かしたまちづくりが重点課題となっている。岐阜県観光振興プラン（平成 25 年 3 月）では、観光資源の発掘とそれを支える人材養成が重要課題と位置づけられている。
- 特に、農山間地が多く自然が豊かな岐阜県では、木工等に関する伝統産業の継承や美しい

観光資源の活用と発掘が重点課題となっており、それを担う人材の育成と供給が重要となってきた。

○このために本学は、「地域資源デジタルアーカイブ」における知の拠点形成ならびに人材養成に不可欠なカリキュラムとデジタルリソースの開発を行ってきた。

○これらの地域課題を解決するため、具体的に地域資源デジタルアーカイブにおける「知的創造サイクル」を実践的に研究し、その研究の成果を2017年より随時 Web で詳しく公開している。(参考：<http://digitalarchiveproject.jp/>)

○また、上記の地域資源デジタルアーカイブをという教育リソースと日本の著名な専門家を招聘した下記のような研修講座も実施してきた。

○デジタルアーキビストの養成

①デジタルアーカイブ in 岐阜 2022・2023 の実施

| | |
|------------------|----------------|
| 日 程：令和5年2月11日(土) | 受講者：72名(県内20名) |
| 令和6年2月11日(土) | 受講者：55名 |

②高校生のためのデジタルアーカイブクリエイータ資格取得講座

| | |
|-------------------|---------|
| 第1期：令和4年 8月27日(土) | 受講者：2名 |
| 第2期：令和4年12月17日(土) | 受講者：43名 |
| 第3期：令和5年 8月19日(土) | 受講者：35名 |
| 第4期：令和5年12月16日(土) | 受講者：27名 |

③高校生のための準デジタルアーキビスト資格取得講座

| | |
|---------------------|---------|
| 日程：令和4年4月～7月 | 受講者：29名 |
| 令和5年4月18日～令和5年2月20日 | 受講者：24名 |

④社会人のための準デジタルアーキビスト資格取得講座(e-Learning)

| | |
|-----------------|---------|
| 令和5年2月11日～2月26日 | 受講者：35名 |
| 令和6年2月11日～2月25日 | 受講者：55名 |

この他にも、本学の教育リソースを活用した教員対象の免許状上進など様々な講座を行い教員のリスキングを行っている。

- ① 幼児教育コーディネータの養成
- ② 小中連携教育コーディネータ養成
- ③ 文部科学省認定公開講座
- ④ 上級デジタルアーキビスト資格取得課程履修プログラム

また、本事業を実施するために次のような研究を現在進めている。

①個別最適化され、創造性を育む学修への転換

○学習者たち一人一人に個別最適化され、創造性を育む学びの実現のための“新たな学び”をデザインする。また、未来社会を見据えて育成すべき資質・能力を育むための“新たな学び”やそれを実現していくための“新たな学びの空間（学修環境）”を形成するために ICT を効果的に活用する。

②効果的で効率的・魅力的な教育方法への転換

○カリキュラムを効率的に教えるために、学習者の特徴や与えられた環境、教育リソースなどを考慮し、最も効果的で効率的・魅力的な教育方法を選択する。そのことにより、実行と評価を繰り返すことで、授業の成果を高める。

③学習者における自律的なオンライン授業への転換

- 教えない授業を実現するためには、自律的な学習者となることが重要であり、その自律的な学習者における自律的なオンライン授業を実現する。
- 授業の目的は「教えること」ではなく、学習者が「自ら学ぶ」ことを手助けし、学習者に変化が起こることである。成果につながる行動変容できる人材育成のみならず、企業内における「学修する文化」を広げる。

・計画事業の具体的な実施内容

- 本事業では、岐阜県における地域人材の育成事業として次のような課題を設定している。
- AI や DX による業務効率化、脱炭素化が進むこれからの時代、社会で活躍し続けるためには、常に知識・スキルをアップデートして変化に対応することが必要である。
- そのための学びのあり方として、リカレント、リスキリングといった社会人の学び直しへの関心が高まっている。
- 一方で、学び直しに興味はあっても、学費の負担や時間の確保がネックとなり、二の足を踏んでいる社会人は少なくない。
- そこで、産業界や社会のニーズを満たすリスキング教育プログラムの開発・提供を行い、社会人のスキルアップやキャリアアップ、キャリアチェンジを後押しする。
- 本リスキング教育プログラムのコンセプトとして、時代の潮流に即した最先端で、各分野において最先端の知見を有する講師により、スキル修得を目指したコンテンツを活用し、いつでもどこでも学習できる環境であるオンデマンドな学習環境を構築する。
- 今年度、リスキング教育プログラムとして開発する内容は以下の通りである。

① AI人材の養成

超スマート社会（Society 5.0）の実現に向け、AIを活用して社会課題を解決し、新たな価値を創造できる人材の活躍が期待されています。世界的にAI人材不足が深刻化するなか、各企業の間で優秀なAI人材の争奪戦が行われており、AI人材育成に対するニーズが高まっています。ここでは、AI人材育成を行う。

講座の内容（予定）

- (1) AIとはなに？
- (2) AIで何ができるか？
- (3) 「人工知能をつくり出そう」
- (4) 人工知能 概論
- (5) 「生成AIの仕組みと社会へのインパクト」
- (6) 「AIと人間の学び」
- (7) 「人とAIの学習研究から考えるこれからの教育」
- (8) 「人工知能（AI）とデジタルアーカイブの現状と未来」
- (9) 進化するAIと変わる著作権・肖像権 他

② デジタルアーキビストの養成

デジタルアーキビストとは、文化・産業資源等の対象を理解し、著作権・肖像権・プライバシー等の権利処理を行い、デジタル化の知識と技能を持ち、収集・管理・保護・活用・創造を担当できる人材のことをいう。

現在では高精細なカメラやスキャナはもちろん、比較的安価で高品質なデジタル機器を個人で揃えることができるが、法制度の改変や技術の進歩、国際的な技術の標準化が急速に進展している。そのため、何を、どんな目的で、どのように記録し、どのように残し、どのように公開していくかを社会の標準的技術と法律の遵守によって行われなければ、デジタルアーカイブとしての価値が失われてしまう。

また、ビジネスのボーダーレス化の進行、来たる超スマート社会（Society 5.0）に向けて、知的財産人材の業務は、これまで主流であった知的財産に関する専門知識を活かす業務だけでなく、ルール形成やビジネスモデル構築等の業務にも拡大しており、「ビジネス・知財総合戦略」を担える知的財産人材の必要性が高まっている。ここでは、デジタルアーキビスト資格と絡め知的財産人材の育成を行う。

講座の内容（予定）

- (1) デジタルアーカイブの基礎

- (2) デジタルアーカイブ開発と活用プロセス
- (3) デジタルアーカイブの評価とメタデータ
- (4) デジタルアーカイブの利活用
- (5) デジタルアーカイブによる地域活性化
- (6) デジタルアーカイブと知的財産権
- (7) ジャパンサーチとデジタルアーカイブ活用基盤
- (8) 世界のデジタルアーカイブの発展とその活用
- (9) デジタルアーカイブと法制度の現在地点 他

③ 学校DX戦略コーディネータの養成

学校 DX 戦略コーディネータは、学校や教育機関においてデジタルトランスフォーメーション（DX）戦略の計画、実施、および評価をし、効果的に推進する役割を担う専門家であり、次の能力を育成する。

- 学校 DX 戦略コーディネータは、教育機関のデジタルトランスフォーメーションの方向性を決定し、具体的な戦略や目標を策定する。これは、教育プロセスの効率化、生徒の学習体験の向上、教育成果の最大化などを含むことがある。
- DX プロジェクトの計画、予算、スケジュール、リソースの調整、および進行状況のモニタリングを担当します。さまざまな関係者と協力して、プロジェクトの成功を確保する。
- 教育分野における最新のデジタルツールやテクノロジーの選定と導入を調整し、教育プロセスや学習環境の向上を促進する。
- ステークホルダー連携：学校 DX 戦略コーディネータは、教師、学生、保護者、教育委員会、地域社会などのステークホルダーと連携し、DX 戦略の成功に向けて協力する。
- DX イニシアティブの成果を評価し、データに基づいて戦略の調整や改善を行う。教育成果や効率性の向上を追求する。
- デジタル教育環境においてセキュリティリスクを管理し、生徒のデータやプライバシーを守る役割も担う。
- 本事業により、地域産業や地域社会を担う人材確保のため、デジタル・グリーン等成長分野に関するリスキングの推進に資する教育リソースを開発し、地域人材の育成カリキュラムの開発・実践する。

講座の内容（予定）

- (1) 教育 DX 時代における新たな学び
- (2) 21 世紀に求められる学力と学習環境

- (3) 主体的・対話的な深い学びの実現
- (4) 学習目標とその明確化
- (5) 学習目標のデザイン
- (6) 教えて考えさせる授業の展開
- (7) 協働的な学びのデザイン
- (8) 「教えないで学べる」という新たな学び
- (9) 遠隔授業のデザイン手法 他

・計画事業の実施により見込まれる地域への影響

- 少子高齢化社会においては、人手不足が深刻化している地方や中小企業ではデジタル化は急務であるが、それを進める人材の獲得には苦慮している。そこで採用ではなく、既存人材をデジタル人材化するための育成が各企業で進んでいる。
- 2022年秋の段階で、DXに取り組んでいる企業のうち、8割以上が従業員のリスキリングに取り組んでいる。
- 総務省も、地域の人への投資を推進しており、官民連携でリスキリングに取り組む自治体が出てきている。地域に必要な人材の確保のため、地方自治体が企業のデジタル人材育成を支援する動きは、今後も活発化ししていくと予想される。
- 企業内研修とは異なり、民間企業や個人向けに教育の機会を提供するには複雑な仕組みが必要である。誰もが学べる環境を整備する、人々が学びたいテーマの教育を準備する、誰が何を学んだか知識が身についたか進捗を確認するなど、すべてを企業内で行うことは難しい。
- それを一気通貫で実現できるのが「Multi Campus One Digital University」である。
「Multi Campus One Digital University」では、高度な指導者によるカリキュラムの開発や e-Learning 配信システムを用いて学習環境を提供する。
- 「Multi Campus One Digital University」とは、DX（Digital Transformation）時代における“新たな学び”の創出により、デジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、リスキング文化を革新し、時代に対応した新たなリスキング教育システムである。
- 本システムにより、全ての授業をいつでもどこからでも受講できるようなオープンなデジタルユニバーシティの構築することにより、新たな雇用機会を創出し、地域に必要な人材確保の新たな展開を実現する。

・計画事業の成果普及に関する取組予定

①「デジタルアーカイブ in 岐阜」の開催

従来、県内各地で行ってきた「デジタルアーカイブ in 岐阜」を本年度も実施する。岐阜県内の企業や地域の人々に対してリスキングの内容・有用性について周知すると共に、本事業の成果を普及する。

②「リスキング講習会」の開催

岐阜県内の企業や地域の人々に対してリスキングの機会を提供すると共に、本事業の成果を普及する。

③社会人のリスキングのための「Multi Campus One Digital University」の構築

「Multi Campus One Digital University」とは、DX（Digital Transformation）時代における“新たな学び”の創出により、デジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、リスキング文化を革新し、時代に対応したリスキング教育を確立する。

・事業スケジュール

上記の計画事業の具体的な実施内容に沿って、「Multi Campus One Digital University」を構築し、DX（Digital Transformation）時代における“新たな学び”の創出により、デジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、リスキング文化を革新し、時代に対応したリスキング教育システムを確立する。

スケジュール（予定）

5-7月 リスキング教育カリキュラムの構築

8-10月 Multi Campus One Digital University の構築

11-12月 e-Learning コンテンツの作成

1-3月 「デジタルアーカイブ in 岐阜」の開催

「リスキング講習会」の開催

○複数年度で実施する事業の場合、事業全体の概要及び当該年度の計画内容が分かるよう記載してください。また、前年度までの実施状況及び目標達成状況も記載してください。

【令和6年度】（予定）

- ① AI人材の養成
- ② デジタルアーキビストの養成
- ③ 学校DX戦略コーディネータの養成

【令和7年度】（予定）

- ④ GX 人材育成
- ⑤ 環境学・食品学人材の育成
- ⑥ ドローン活用人材の育成

○複数年度で実施する事業の場合、事業全体の目標及び当該年度の目標を設定してください。

【令和 6 年度】（予定）

① AI 人材の養成

- ・ AI 人材の養成に関する講座カリキュラムの開発（15 講座）
- ・ e-Learning 教材の開発（15 講座）
- ・ 受講者 50 名

② デジタルアーキビストの養成

- ・ デジタルアーキビストの養成に関する講座カリキュラムの開発
- ・ e-Learning 教材の開発
- ・ 受講者 50 名

③ 学校DX戦略コーディネータ養成

- ・ 学校DX戦略コーディネータの養成に関する講座カリキュラムの開発
- ・ e-Learning 教材の開発
- ・ 受講者 50 名

○推進体制

Multi Campus One Digital University構想

◆事業概要

地域産業や地域社会を担う人材確保のため、デジタル・グリーン等成長分野に関するリスキングの推進に資する教育リソースを開発し、地域人材の育成カリキュラムの開発・実践する。
 そのために、「Multi Campus One Digital University」とは、DX (Digital Transformation) 時代における“新たな学び”の創出により、デジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、リスキング文化を革新し、時代に対応したリスキング教育システムを構築する。

大学教育推進会議

Multi Campus One Digital University構想の実現

自律的なオンライン授業の分析と設計

教えない授業を実現するためには、自律的な学習者となることが重要であり、自律的な学習者であれば自律的なオンライン授業が実現する。ここでは、自律的なオンライン授業の分析と設計について考える。

リスキング教育システムの構築

Multi Campus One Digital Universityの基盤整備

大学の新たな展開の実現

- ①オープン教育の実現
- ②主・副専門システムの拡充
- ③資格取得の推進
- ④自宅・学校での学習の学びの連携性の確保
- ⑤いつでもどこからでも学べる環境
- ⑥卒業後の学びへのサポート（生涯学習）

教育リソース

これらのハイブリット型授業の効果を上げるのが教育リソース（個別に対応した教材・素材のデジタルアーカイブ等学習支援デジタルアーカイブ）である。これらの教材をデジタルアーカイブし、提供できるシステムを構築しておくことが重要である。

インストラクショナルデザイン

「インストラクショナルデザイン」や「教えないで学べる」学習環境は、キャンパスの学校学習の時間モデルの授業の質を高め、授業理解を助け、学習機会や学習持続力を高めるための手法であり、学習環境でもある。

大学における知の拠点整備

e-Learning

e-Learningコンテンツのオープンデータ化

デジタルアーカイブ研究所 カリキュラム開発研究所

大学生から社会人まで幅広い学習者を対象として、本学における今までの「遠隔教育の実績」と「膨大な教育リソース（デジタルアーカイブ）」を最大限に活用し、e-Learningを授業主体として展開する新しいリスキング教育を推進している。

BYOD (Bring Your Own Device)

Society 5.0 時代を生きる全ての学生の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、大学における ICT の積極的な活用が不可欠との観点から住民のコンピュータ「BYOD (Bring Your Own Device)」を推進する。

ラーニング・コモンズ (Learning Commons)

この学習支援を実施するためにも、自学習をする児童生徒の利用目的や学習方法にあわせ、ICTを柔軟に活用し、効率的に学習を進めるための総合的な学習環境であるラーニング・コモンズ (Learning Commons) を地域に整備する必要がある。